

地区だより

VOL 22 1994.6.10
発行 西湘放射線技師会

新緑の候、会員の皆様方には益々御清栄のこととお慶び申し上げます。過日の総会においては熱心に、且つ建設的な討議を頂き誠に有り難うございます。新年度に向け、会員皆様の会運営に対する並々ならめ期待を、役員一同ひしひしと感じ、残り1年間を全うしなければと心新たに致しました。

減反備蓄の減少・凶作・米不足・米価の高騰、私自身農家の出のため今年の天候を気にしつつ何故こうなったか？、天候の所為、農家だけの責任？、或いは何処かに歪みがあったのでは、高度な政治的な判断は私には判りませんが、その団体が個々の足下を見つめず、長年にわたり特定の団体、個人の提灯持ちを演じたことがこのような結果では、気がついたら梯子を外されているどころか空中に放り出されていたのではないのでしょうか。似たような結果を招かぬようにするためには、後輩のため我々が将来に向け、今何をなすべきか、地区活動を見つめ直す時期ではないかと思えます。日放技が高度な学問を目指し活動を展開し、既存の各種学校が解消されないうちに各種学校が設立と、相反する動きがあり、今後もこのような働きかけがあるものと思えます。

このような状況の中、県技師会の事務所の拡充募金の継続、日放技における大学院の設置のための募金の開始、共に画竜点睛を欠くことがないようにもう一度見直しませんか。組織を結成し、地区技師会、県技師会、日放技と規模が大きければ大きいなり、小さければ小さいなりに、各個人が権利を主張し、負担を遂行する姿勢が、役員のための会にならずに、組織の発展、社会的に認められる団体になるものと思えます。会員みんなで一歩、一歩足下を見つめて進もうではありませんか。今年度も役員を叱咤激励すると共に、会員の皆様のご指導、御鞭撻をよろしくお願い致します。

西湘放射線技師会 会長 大木 達也



地区委員報告

1. はじめに

5月19日(木)平成6年度第1回神奈川県放射線技師会地区委員会が、県技師会事務所で開催されました。西湘地区委員として2年目を迎え、情報・連絡係として、益々頑張る所存ですので皆様の御指導、御協力の程お願い致します。

さて、年度が変わり各地区委員が一部変更になりましたので御紹介致します。

2. 県地区委員紹介

地区	委員名	勤務先	地区	委員名	勤務先
委員長	中村 豊	県立厚木病院	横 三	中居 武美	横須賀市民病院
副 長	高田英勇	三宅胃腸科病院	鎌 倉	杉山文男	佐藤病院
川 崎	斎藤 明	川崎中原保健所	湘 南	児玉 仁	茅ヶ崎市立病院
川 崎	中川義明	聖マ医大病院	平 塚	揚村常光	日産車体健管
横 北	高橋喜美	汐田病院	西 湘	坂本重己	印刷局病院
横 中	藤井健次	佐藤病院	伊勢原	堀内順一	秦野日赤病院
横 東	田中耕策	県予防医学協会	県 央	小野寺誠	県立厚木病院
横 西	早川俊一	県労働福祉協会	相模原	鈴木 慎	北里大救急セ
横 南	泉 和弥	横浜市南部病院			

3. エックス線写真等の光磁気ディスク等による保存について

新聞等でご周知のことと思いますが、平成6年3月29日付で厚生省より、エックス線写真等に代わって光磁気ディスク等の電子媒体に保存しても差し支えないことが通知されました。(詳しくは神奈川県放射線5月号)

4. 大学新設申請が倍増

文部省は1995.96 両年度に開設を目指している大学、短大の新設と学部・学科の増設の申請計65件を大学設置、学校法人審議会に諮問した新設は23校と昨年(12校)に比べほぼ倍増している。来春開校の予定は、茨城県立医療大、長野県看護大、川崎市立看護短大など大学4校と短大6校、96年の予定は平成大(埼玉県)や日本赤十字秋田短大など大学10校と短大3校。看護職員養成や社会福祉、医療技術関係の分野の大学と短大が合わせて11校と新設校のほぼ半数を占めた。

95年度開設放射線技師関係学校は茨城県立医療・広島県立保健福祉。

5. おわりに

昨年は学校問題で1年が終わった感じでした、今年度も帝京大学(100名)を皮切りに、大分県にも専修学校設立の話が持ち上がっています。薬剤師会では現状の4年制から6年制へ移行しようとしている昨今、情けないのと同時に、今後の放射線技師の将来に対し不安と責任を感じざるを得ません。

西湘放射線技師会の皆様、県放射線技師会に対して御意見や疑問等ありましたら何でも結構ですので地区委員へお聞かせ下さい。

地区委員 坂本

新健康管理センターの紹介

富士フィルム健康管理センター
杉本津子夫 山田 孝

以前、地区だよりVOL16（1992.6.9発行）の紙面で当センターの沿革、概要、スタッフ、X線装置等のご紹介をさせて頂きましたが、この度念願の新センターが完成しましたので今回は建物レイアウトを中心に再度皆さんにご披露させて頂きます。

平成4年10月社長建設許可、11月建設推進チーム編成、建設場所は今までの同一場所に建てる為、平成5年3月仮移転先引っ越し。平成6年3月末完成迄の約一年間は建設予定地に関係しない残った古い建物を利用しながら診療を続けました。（X線室もご多分に漏れず搬出、搬入二度の引っ越し作業に見舞われ、都度関係業者さんにご苦労をお掛けした次第です。）

住み馴れた旧棟は朽ちた木造平屋建て、ウグイス張りの長い連絡通路、築50年を経過し通年雨音を耳にするやあっちこっちの職場が一斉にたくさんのバケツを抱えて建屋の中を走り回り、初夏の陽気ともなるとミミズ、トカゲちゃんが涼を求めて遊びに来たり数回は白アリ軍団が一斉に舞うという、まさに季節の変化を肌を感じながらの毎日でした。この状況の中で医療に携わってきた私達にとって今回の新センター完成はまさに「夢のようなお城」であり、中で働く気分は天国と言えるでしょう。

以前勤務されていた飯塚先生の頃より、そして現在の杉本先生へと引き継がれて来たウラ話し？によると単年度予算の度に新棟立て直しの話しは議題に上がるものの、会社はややもすると生産部門の方を優先させてしまう本音の部分もあり、出ては消えの繰り返しで10年が過ぎ、いよいよ壁が柱を支える程に老朽化が進み安全対策上危険が生じた為新棟建設に踏み切ったという「お家の事情」も一理有るやにお聞きしております。

「健康管理センターの基本理念」の他に年頭に出される「所長の最重点課題」というのが有ります。その中の一つ、「新棟稼働後の新棟の有効な活用」の課題にそって特に所長以下スタッフ全員が診療内容の拡大充実を目指して一部結果を出しながら取り組んでいる最中で有ります。

今までの建物でしたら特徴的構造がタコ足配置とでも言いましょうか、診療を受ける患者さんが検査の段になると（レントゲン、心電図、聴力、採尿 → → →）渡り廊下を伝って、あっちへ行きこっちへもどってそちらへどうぞ・・・などを繰り返しているうちに元の外来診療棟へ帰れなくなり外へ出ちゃったケースも有る位でした。

このような貴重？な経験を生かし新センターのレイアウトは各系統ゾーン別に各階を分けて配置してあるのが理解戴けるかと思えます。二階の定期健診ゾーンはぐるっと回ると健診がすべて終了するよう工夫して有りこの一画にX線室エリアを設けてあります

（6月24日勉強会は当センターの見学会も兼ねて学術委員の方から計画して頂きましたので、当日多数のご参加を希望しております。）

以上

入・退会情報欄

新入会員	足柄上病院	大石 恭範
		石渡 靖
		岩倉 健治
	間中病院	石田 正雄
	小田原保健所	小川 雅庸
退会	足柄上病院	飯田 喬
		小林 正一
		茂呂 豊
		大和 虎明
	小田原循環器病院	桐田 丸行
	真鶴国保診療所	本郷 隆幸
	鶴ヶ峰病院	千安 式部

編集後記

毎年3月の西湘放射線技師会総会が終わり、「地区だより」6月号の構想を自分なりに検討している段階では、新しい企画、やってみたい企画等いろいろと思い描いてはみるのですが、なにせ自分の仕事との板ばさみで取材や資料集めの時間さえまならない現状では、皆様へ無理やりお願いした原稿を編集して発行するのが手一杯のありさまです。

頼りにしていた足柄上病院の茂呂さんも転勤で退会し、後任の編集委員を捜している時気軽に引き受けていただいたのが、総会の時に紹介した国立箱根病院の福島さんでした。文章を書くのも、ワープロを打つのもお手のもので、これから発行する「地区だより」に新しい風を吹き込んでもらいたいものです。

「とく」

